

広報活動

JICAは、本部に加え国内拠点と海外拠点から、開発途上国の抱える課題や日本との関わり、JICAの各種取り組みなどを、さまざまな方々の興味・関心に応える形で発信しています。

2016年度はアフリカ開発会議(TICAD)や母子手帳国際会議、リオデジャネイロ五輪など、国際会議やイベントの機会を活用した広報活動も行いました。

● ウェブサイト、ソーシャルメディア

一般の方々向けに、開発途上国を取り巻く課題や、それに対するJICAの取り組み、その成果など、具体的な事例を中心に紹介しています。

2016年度からは特にソーシャルメディアの活用を強化し、Facebook、Twitter、YouTubeなどを通じて、国内および海外向けに積極的な情報発信を行っています。

● JICA広報誌

和文広報誌『mundi』(月刊)、英文広報誌『JICA's World』(季刊)では、世の中の流れや国際会議のタイミングをとらえた特集を組み、関連するJICAの取り組みを紹介しています。

● 報道メディア

日本のメディア向けには、本部や国内の拠点からタイムリーにプレスリリースを発信するほか、特定の分野や、国・地域などをテーマにした勉強会を開催し、JICAの協力動向などについて情報提供しています。海外のメディア向けには、海外拠点からのプレスリリース発信に加え、2016年度はTICADを前にアフリカ14カ国から新聞記者を日本に招き、アフリカの開発課題解決に貢献する日本の経験取材する機会を提供しました。

● イベント

イベントを通じ、広く一般の方々へ開発途上国での活動を直接紹介することも重視しています。2016年度は、東京のグローバル・フェスタJAPANをはじめ、名古屋のワールド・コラボ・フェスタや大阪のワン・ワールド・フェスティバルなどのイベントを外務省やNGOなどと共催し、多くの方にご来場いただきました。

● JICAオフィシャルサポーター

元サッカー日本代表の北澤豪さん、シドニー五輪の女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんのお2人に、JICAオフィシャルサポーターとして活動していただいています。2016年度は北澤さんはミャンマー、高橋さんはブータンを訪問。お2人がそれぞれ現場で感じた開発途上国の現状やJICAが行う各種の取り組みは、テレビなどを通じて多くの方に発信されました。

● 国内・海外拠点の取り組み

JICAの国内拠点では、地方自治体や大学、中小企業、青年海外協力隊員など、各地域の組織や人が主役となっていく国際協力について、地方メディアなどに対する情報提供を積極的に行っています。

また海外拠点でも、現地メディアにJICAの事業現場を取材してもらうプレスツアーを実施したり、日本メディアの海外在住記者向けセミナーを開催したりするなど、現場ならではの情報発信を行っています。



なんとかしなきゃ! プロジェクト

市民参加型の国際協力推進活動である「なんとかしなきゃ! プロジェクト」(通称「なんプロ」)は、JICAが、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)、国連開発計画(UNDP)駐日事務所、国連広報センター(UNIC)と共同で実行委員会を運営しています。趣旨に賛同する130名以上の著名人メンバーや、260以上のメンバー団体と連携して、開発途上国の現状や身近にできる国際協力の活動について情報発信しています。イベントの実施やウェブサイト、SNSとも連動した発信を行うことで、特に若い世代を中心に共感を呼び寄せ、国際協力への関心や行動が社会に広がっていくことを目指しています。



なんプロメンバーのさかなクンがブラジル・アマゾンを訪れ、生物多様性保護のための活動を中心に視察。テレビを通じて、自然環境を守る取り組みの大切さが伝えられた